

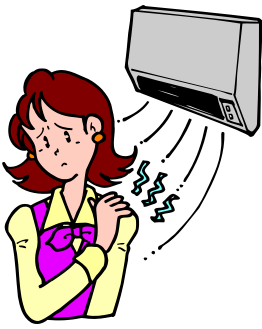
ごとう通信

第127号

平成23年7月1日

確か先月は六月でしたよね、七月ではなくて。梅雨も明けたかどうかわからないうちに30度だとか35度だとか。ありえない状況になっています。今年のご存知のように電力不足。昨年のような暑さにならないければと祈るばかりです。

その電気ですが、単なる「省エネに向けて努力しましょう」ではすまなくなっている社会です。と言つのも、電力があることを前提に建物や社会構造が成り立っています。かつての和風建築であれば、風の流れや日光の入る角度



や方角を計算して作っていたはずです。ところが、今ではエアコンを使うことを前提にしているので、気密性を強化した家作りになっていきます。問題はそれだけではすみません。日本人は、そのような環境に慣らされた体になっているということ。暑ければ汗をか

ければよいのですが、長年エアコンの中に閉じこもっていた人は汗をかく機能すら低下し、体温調整ができません。高齢者はともかく、子供たちまで日射病や熱中症に倒れるというのは異常事態です。

今回の震災や原発事故は本当に不幸な出来事だったのですが、電気的大量消費、エアコン中心生活には疑問を持っていたので、災い転じて：：となるといいですね。ちなみにわが家では、昨夏もエア

コンを使用しませんでした。と言うよりもエアコン自体数年動かしていません。慣れるとうちわや扇風機生活も悪くないですよ。

コンデিশニング

皆さんがこの通信をお読みになる頃には終わっていると思いますが、七月三日はオーストラリアで開催されるゴールドコーストマラソンに参加します。僕たち夫婦は三年連続出場。もちろんすばらしい大会なのですが、今年の春までは、別の海外大会へのエントリーを考えていました。しかし、冬場からトレーニングして目指した三月の国内レースは震災で中止になり、急遽七月のゴールドコーストをエントリーしたのです。